

廃棄物削減への取り組み

当社から排出される廃棄物の大部分は段ボール、ストレッチフィルムやPPバンド等、お取引先様から納品されてくる商品に付随した梱包資材です。

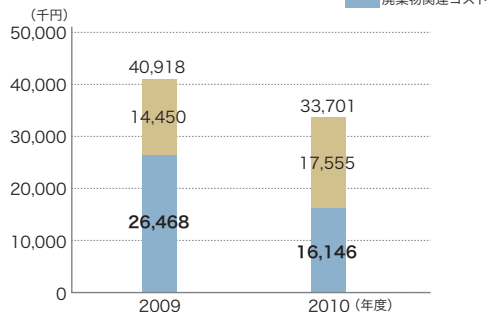
これらの廃棄物の削減については、当社で排出量をコントロールすることが困難であるため、「廃棄物関連コストの削減」を目標として設定し、再資源化を推進しています。

ただし、当社で排出量をコントロールすることが可能な「製造に関わる部分」については、廃棄物排出量の削減にも取り組んでいます。また、当社オリジナルブランドの商品開発においてでは、容器包装の軽量化等も推進しています。

廃棄物関連コストの削減

製造現場および物流センターでは後述する取り組みにより、廃棄物の削減をはかっています。また、事務所等のオフィスでも廃棄物の分別等に取り組み、再資源化をはかるとともに、廃棄物関連コストの削減も推進しています。

廃棄物関連コストの推移

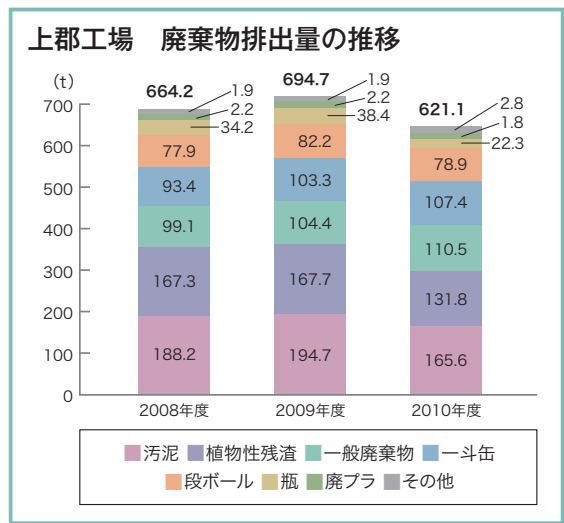


その結果、2010年度の廃棄物関連コストは、16,146(千円)となり、目標の2008年度比25.2%削減に対して56.5%削減、2009年度の26,468(千円)と比較して10,322(千円)、39.0%の削減となりました。

製造に関わる廃棄物の削減

上郡工場では、生産段階で異物除去などにとまない発生する植物性残渣や排水処理設備から発生する有機汚泥を、液状肥料等に100%リサイクルしています。

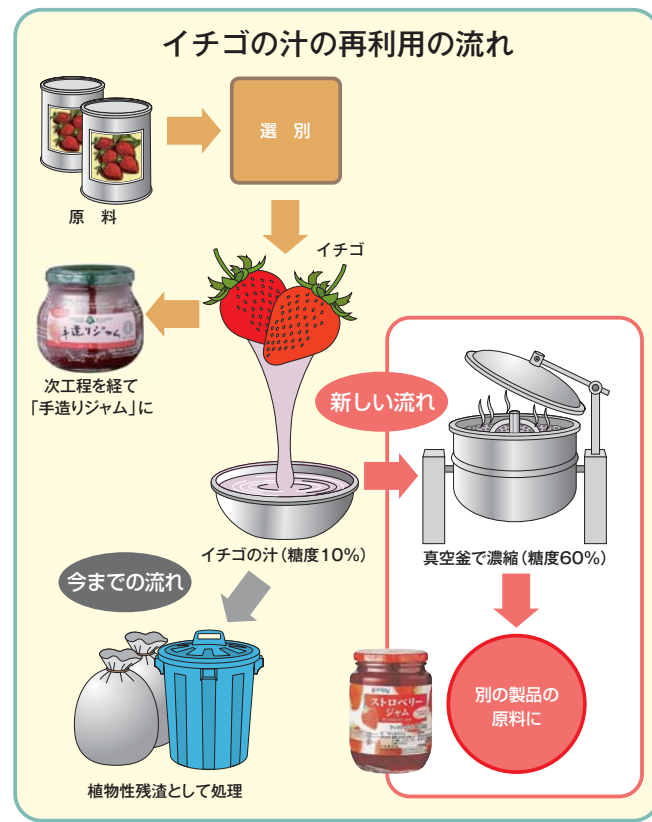
2010年度は、今まで廃棄していた「イチゴの汁(糖度10%)」を真空釜で濃縮し、糖度を60%まで高め、製品原料として再使用することで、植物性残渣の排出量が35.8t削減しました。また、排水処理設備の汚泥とスカム*の混合割合を調整したことにより、脱水効率が向上し、汚泥の排出量が29.1t削減しました。



その結果、2010年度の廃棄物排出量は621.1tとなり、2009年度の694.7tと比較して73.6t(10.6%)の削減となりました。

また、2010年度の廃棄物関連コストも7,760(千円)となり、2009年度の9,409(千円)と比較して、1,649(千円)、17.5%の削減となりました。

*スカム:気泡によって浮き上がった汚泥



乾物部では、海苔や椎茸を加工する際に発生する形状不良品などを、従来から廃棄物として処理するのではなく、食品加工業者に販売しています。食品加工業者では、これらを食品メーカーに販売し、食品メーカーではお茶漬けや肉まんの具材として利用されています。



物流に関わる廃棄物の削減

お客様さまへの納品には「通い箱(折りコン)」を使用し、お客様さまでの廃棄物の抑制をはかっています。

また、物流センターから排出される廃棄物の大半が、段ボール、ストレッチフィルムやPPバンド等のお取引先様から納品されてくる商品に付随した梱包資材です。これらを適切に分別することにより、再資源化を徹底しています。



通り箱(折りコン)

PB商品開発に関する廃棄物の削減

当社オリジナルブランドの商品開発においては、環境に配慮し容器の軽量化を推進しています。





従来は缶容器にて販売していた「うずら卵」や「ゆであずき」等をプラスチック製の容器に変更し、消費者のご家庭で排出される廃棄物の削減をはかることができます。

また、上郡工場ではジャムの原料に使用されているポリ袋について、取引先と協力し軽量化に取り組みました。

具体的には、原料メーカーにポリ袋を納品しているメーカーに対し、薄手のポリ袋を供給することを要請するとともに、原料メーカーには薄手のポリ袋の採用を働きかけました。

その結果、ジャム原料1kgあたりのポリ袋の重量が約18g軽量化されるとともに、物流部分でも軽量化による効果が生まれています。

容器軽量化の一例

商品名	従来品	新商品
ゆであずき 甘さひかえめ	 スチール缶 (50g)	 プラスチック製容器 (5g)
Kanpy 味付け うずら卵	 スチール缶 (37.4g)	 プラスチック製容器 (3.7g)